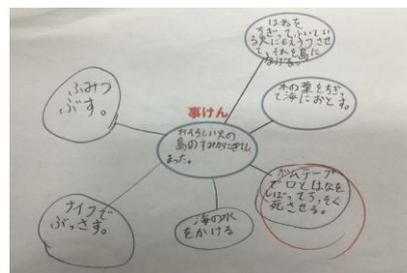


### 3年 「たから島のぼうけん」①

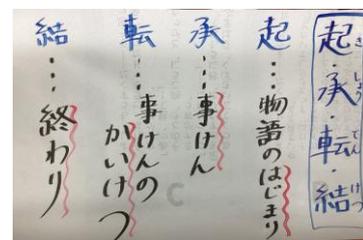
3年生国語科「たから島のぼうけん」では、ぼうけんの様子がよく伝わるように書き表し方を工夫し、読者が楽しめる物語を書くことを単元の目標として、単元計画を立てました。

単元のはじめに、教科書に示された地図を見て、どのような物語が浮かんでくるかを交流する場面を設定しました。「ここで何か起こりそう」「宝がある！」など、どの子もワクワクドキドキした様子で想像をふくらませていました。そこで、「ワクワクドキドキするぼうけん物語にするために、どのようなことを工夫したいですか」と問いかけました。すると、「島で起こる出来事を工夫したい」「登場人物を工夫したい」「『ガラッ』などの様子が伝わる言葉を使いたい」などの考えが出されました。これらの声をもとに、ドキドキワクワクする物語を書くという単元のねらいを子どもたちと共有しながら、単元計画を作成・共有することができました。

次に、物語の基本的な構成である「起承転結」について確認しました。特に本単元では、「承：事件」「転：解決」に重点を置いて物語を構想できるようにしました。そこで、思考ツールを活用し、考えられる事件やその解決方法をできるだけ多く出し合いました。ここでは、地図上の同じ場所に注目した子ども同士でグループを編成し、協働的に学習を進めました。友だちのアイデアに触れながら、自分の考えを深めたり広げたりする姿が見られました。



さらに、物語の組み立てを考えました。ここでは、「承（事件）」の部分では、登場人物の気持ちが一変大きく落ち込む場面があるからこそ、続く「転



(解決)」でのドキドキワクワクにつながることを、これまで学んできた物語文を具体例に確認しました。子どもたちは、「大変なことが起こるから続きが気になる」「ピンチがあるとおもしろい」といった気づきをもと

おわり	中	はじめ
宝箱のおかげで億万長者になった。	鼻と口をガムテープでしぼったらちっさく死んで消えて行った時に宝箱の鍵を落として勝った。	億万長者が夢でした。ひっこししようとして押入の中身を出して見ました。その時宝の地図を見つけた。

に、起承転結を意識しながら物語の組み立てを考えていきました。この活動の中では、「解決をもっと盛り上げたいから、事件の場面で登場人物が落ち込むような出来事を足してみよう」「ここで登場人物の気持ちを書いておくと、後の解決がより伝わりやすくなる」といったように、自分の書いた組み立てを見直し、よりよいものにしようとする児童の姿が見られました。